

2025年12月期第2四半期(中間期)

決算説明資料

木徳神糧株式会社



2025年12月期第2四半期(中間期) 連結業績の概況

決算ハイライト（P／L）

増収・増益(過去最高益)

単位：百万円

	前中間期 (2024年1～6月)	当中間期 (2025年1～6月)	増減額	前年同期比
売上高	59,190	84,015	24,825	141.9%
売上総利益 売上比	4,237 7.2%	8,750 10.4%	4,513	206.5%
販売費及び一般管理費 売上比	3,177 5.4%	3,492 4.2%	315	109.9%
営業利益 売上比	1,059 1.8%	5,257 6.3%	4,198	496.4%
経常利益 売上比	1,172 2.0%	5,355 6.4%	4,183	456.9%
特別損益 売上比	0 —	▲3 —	▲3	—
親会社株主に帰属する 中間純利益 売上比	831 1.4%	3,703 4.4%	2,872	445.6%

売上高（セグメント別）

単位：百万円

100,000
90,000
80,000
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0

前中間期
(2024年1～6月)

当中間期
(2025年1～6月)

米穀事業



- ・米価高騰に伴う販売単価の上昇
- ・政府備蓄米の取り扱いと迅速な全国への流通による販売増

59,190

1,628
4,217
4,877

48,467

248億円
41.9%増
(前年比)



84,015

1,546
5,290
5,000

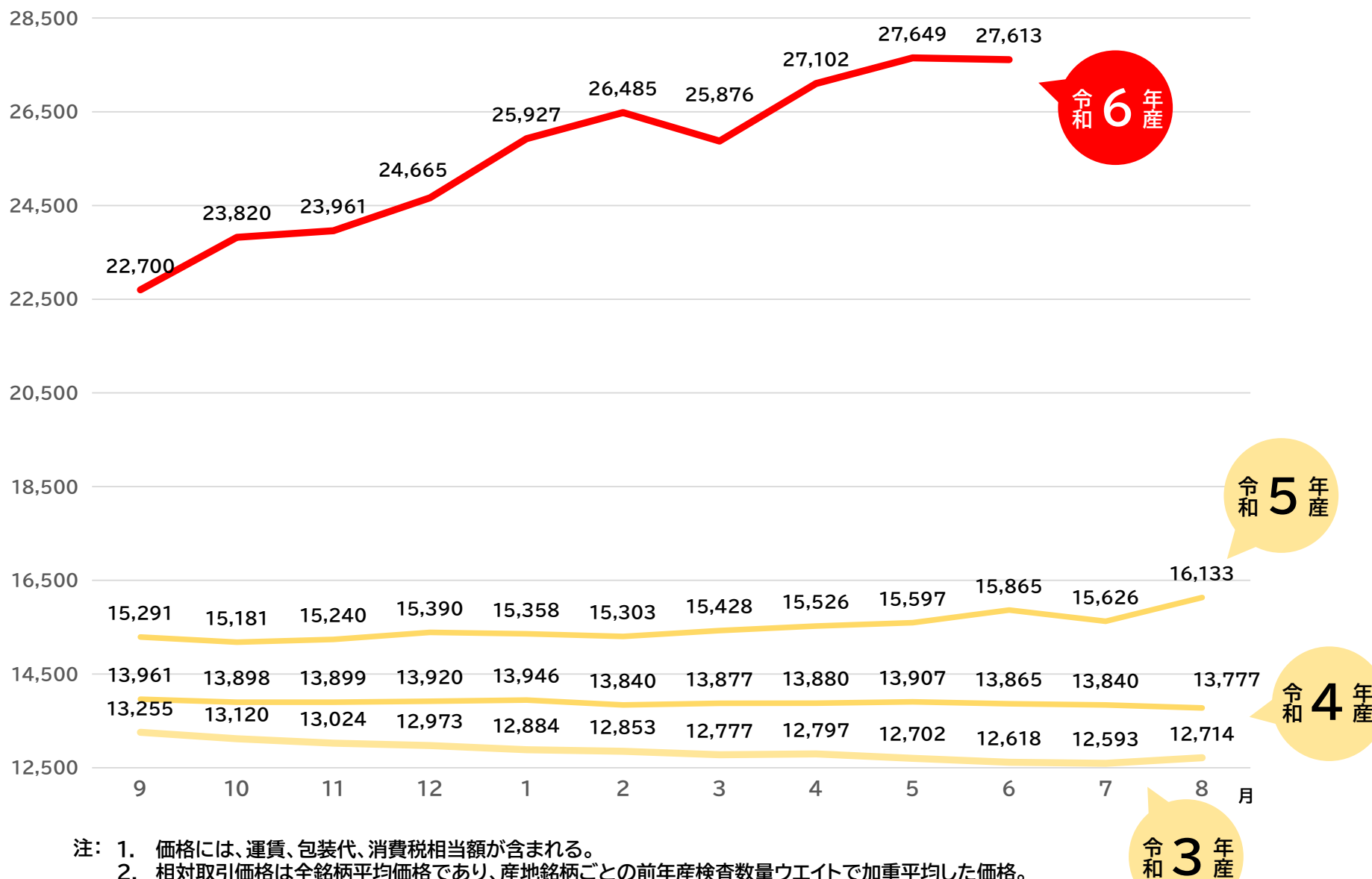
72,177

米穀事業
48.9%増
(前年比)

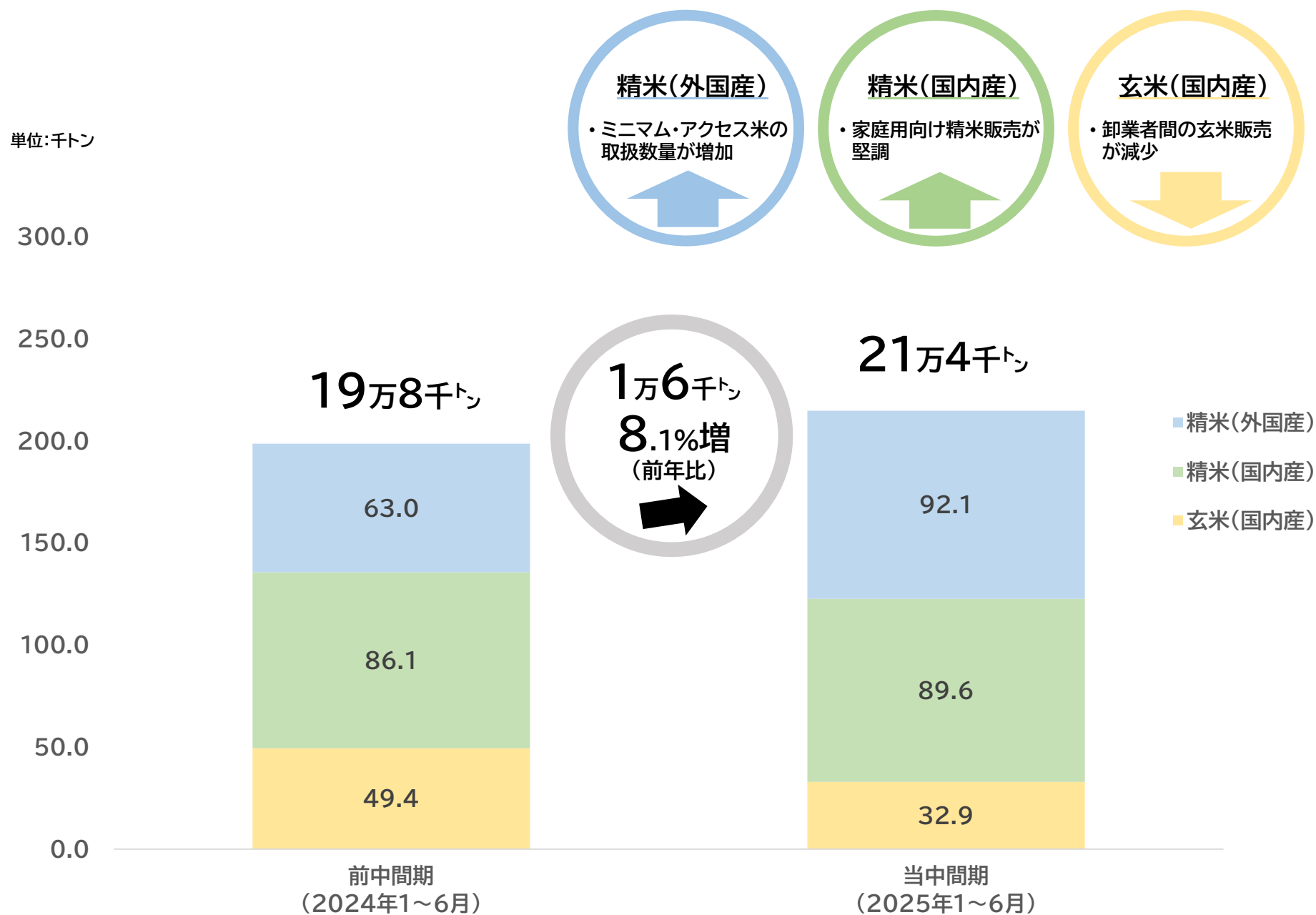
- 食品事業
- 鶏卵事業
- 飼料事業
- 米穀事業

コメの相対取引価格の推移

単位:円/60kg



販売数量（米穀事業）



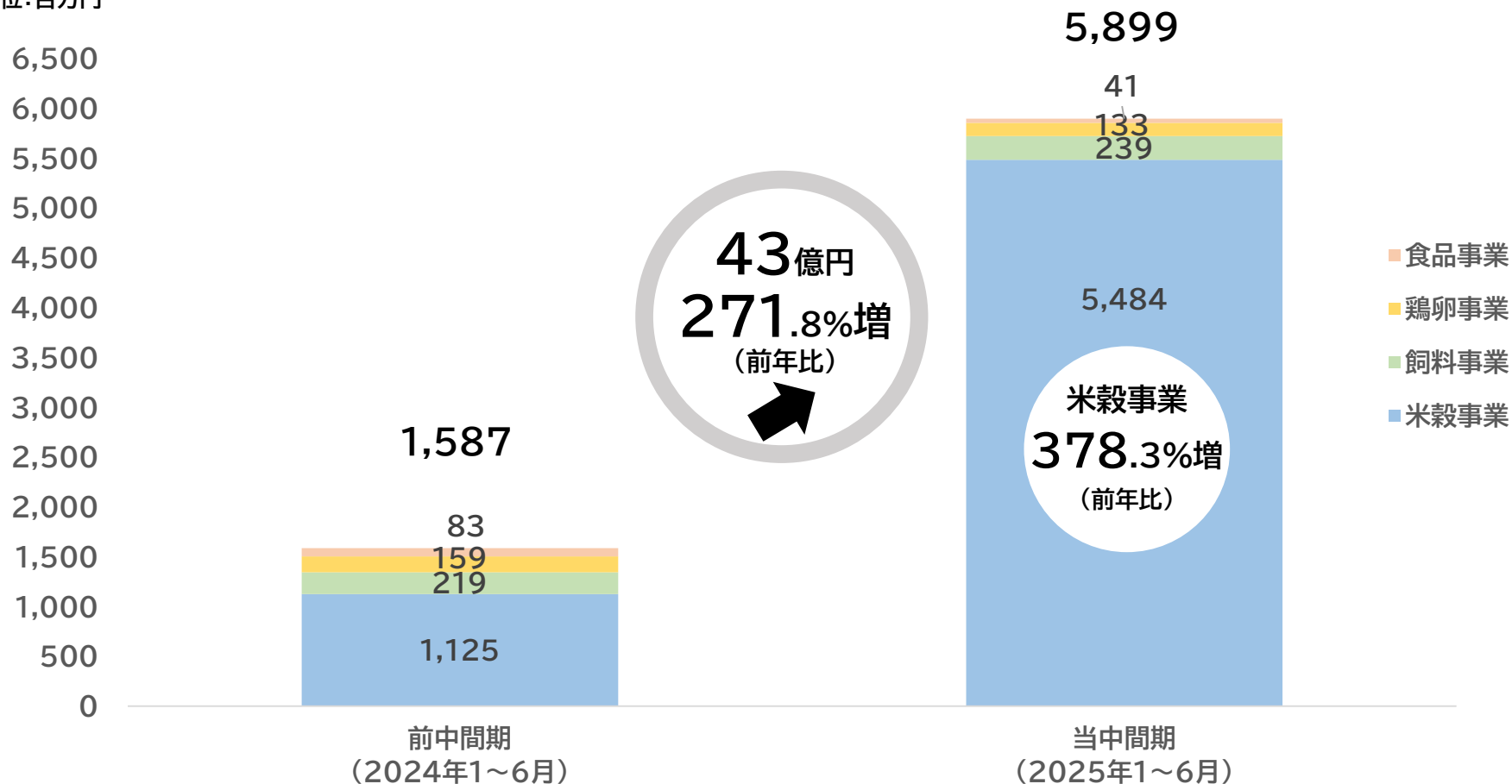
営業利益（セグメント別）

米穀事業



- ・安定供給が最優先となり、仕入価格の変動を適時・適切に反映
- ・薄利多売の特売がほぼゼロに
- ・引き合いの強い家庭用需要への対応

単位:百万円



資産、負債及び純資産の状況（１）

【資産の部】

単位：百万円

50,000

45,000

40,000

35,000

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

5,000

0

40,169

流動資産
30,229

固定資産
9,940

前期末
(2024年12月末)

47,088

流動資産
37,167

固定資産
9,920

当中間期末
(2025年6月末)

単位：百万円

流動資産 +6,938

たな卸資産 +2,453

現金及び預金 +2,303

売掛金等 +2,160

固定資産 ▲20

有形固定資産 ▲90

長期前払費用 ▲24

投資有価証券 + 105

資産、負債及び純資産の状況（２）

【負債・純資産の部】

単位:百万円
50,000

45,000

40,000

35,000

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

5,000

0

前期末
(2024年12月末)

当中間期末
(2025年6月末)

40,169

流動負債
21,993

固定負債
2,616

純資産
15,560

47,088

流動負債
26,460

固定負債
1,799

純資産
18,827

単位:百万円

流動負債 +4,467

短期借入金等※ +2,584

未払法人税等 +1,113

※ 1年以内返済予定の長期借入金を含む

固定負債 Δ 817

長期借入金 Δ 758

役員退職慰労引当金 Δ 123

決算ハイライト（B／S）

	前期末 (2024年12月末)	当中間期末 (2025年6月末)	増減
総資産(百万円)	40,169	47,088	+6,919
純資産(百万円)	15,560	18,827	+3,267
自己資本比率	37.3%	38.9%	+1.6
1株当たり純資産(円)※	1,837.04	2,238.10	+401.06

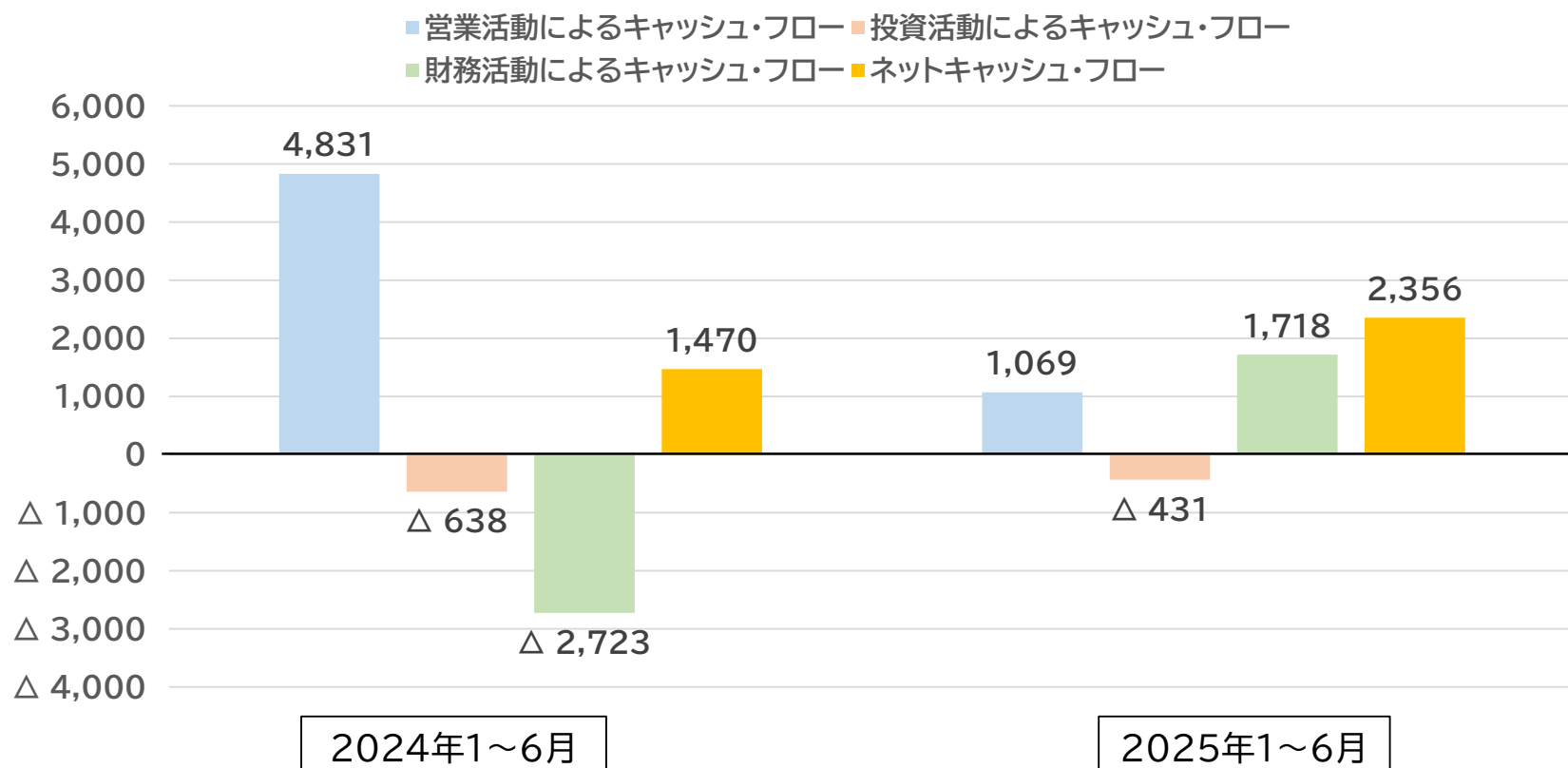
(参考)自己資本:2024年12月末 15,002百万円、2025年6月末 18,307百万円

※ 2025年7月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。
前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり純資産」を算定。

決算ハイライト (C/F)

単位：百万円

	前中間期 (2024年1～6月)	当中間期 (2025年1～6月)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,831	1,069	△3,762
投資活動によるキャッシュ・フロー	△638	△431	+207
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,723	1,718	+4,441





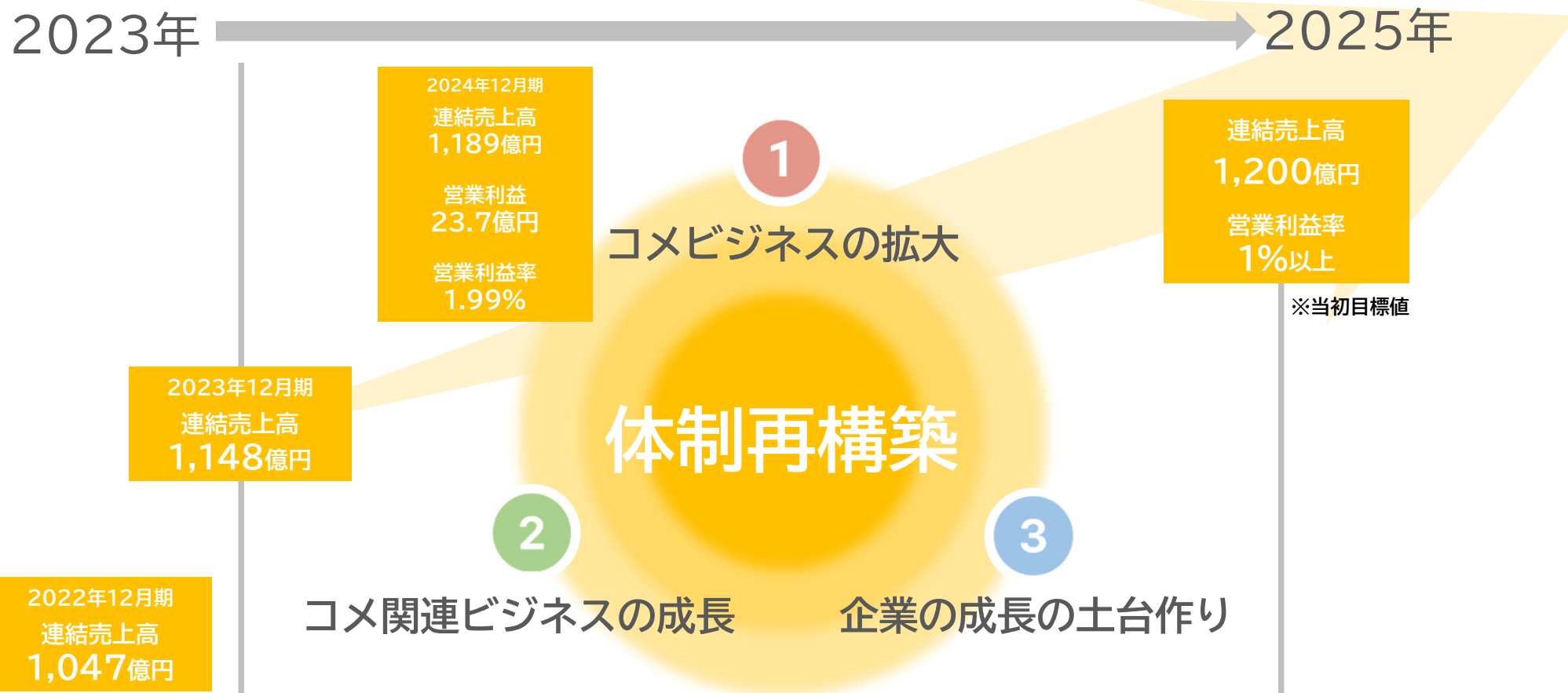
経営戦略



中期3ヵ年経営計画



事業規模・事業領域の拡大に向けた体制再構築の期間と定義し、
収益体制を作りながら成長を図る



当期を次期中期3ヵ年計画の準備期間と位置付け
(2026年～2028年)



1

コメビジネスの拡大

- ・グループ総力を挙げた政府備蓄米流通の円滑化
- ・UMB P（無洗米）製造体制の強化
- ・海外法人を活用した海外マーケット開拓

2

コメ関連ビジネスの成長

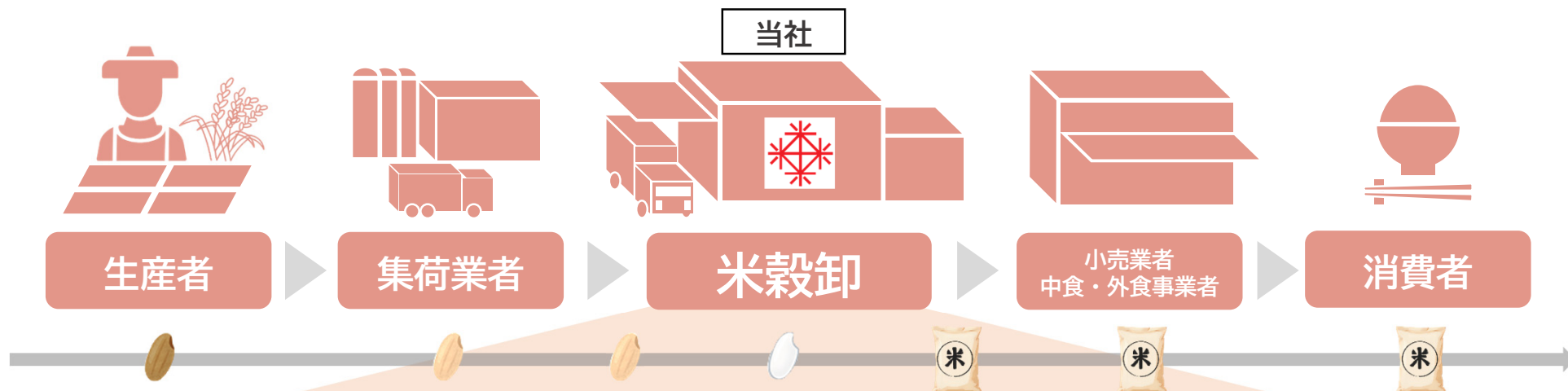
- ・飼料事業・鶏卵事業の持続的成長
- ・新商品・新規事業の具体化に向けた着実な取り組み

3

企業の成長の土台作り

- ・人的資本経営の強化（ベースアップ、職務階級や階級毎要件の見直し）

米の流通と当社の役割



米の流通において“精米卸”※ が担う役割

※単に米の売買だけではなく、自社工場で精米し実需に直接販売することを主要な事業とする米穀卸（当社見解）

品質管理

- 安全な製品を提供するため、原料の受け入れから出荷までの徹底した品質・衛生管理

精米・選別

- 入荷した玄米の状態に合わせた精米
- 混入している異物（ガラス、石、金属、被害粒等）の除去

包装

- 精米を取引先のニーズに合わせた荷姿、適切な食品表示のパッケージに包装して出荷

安定供給

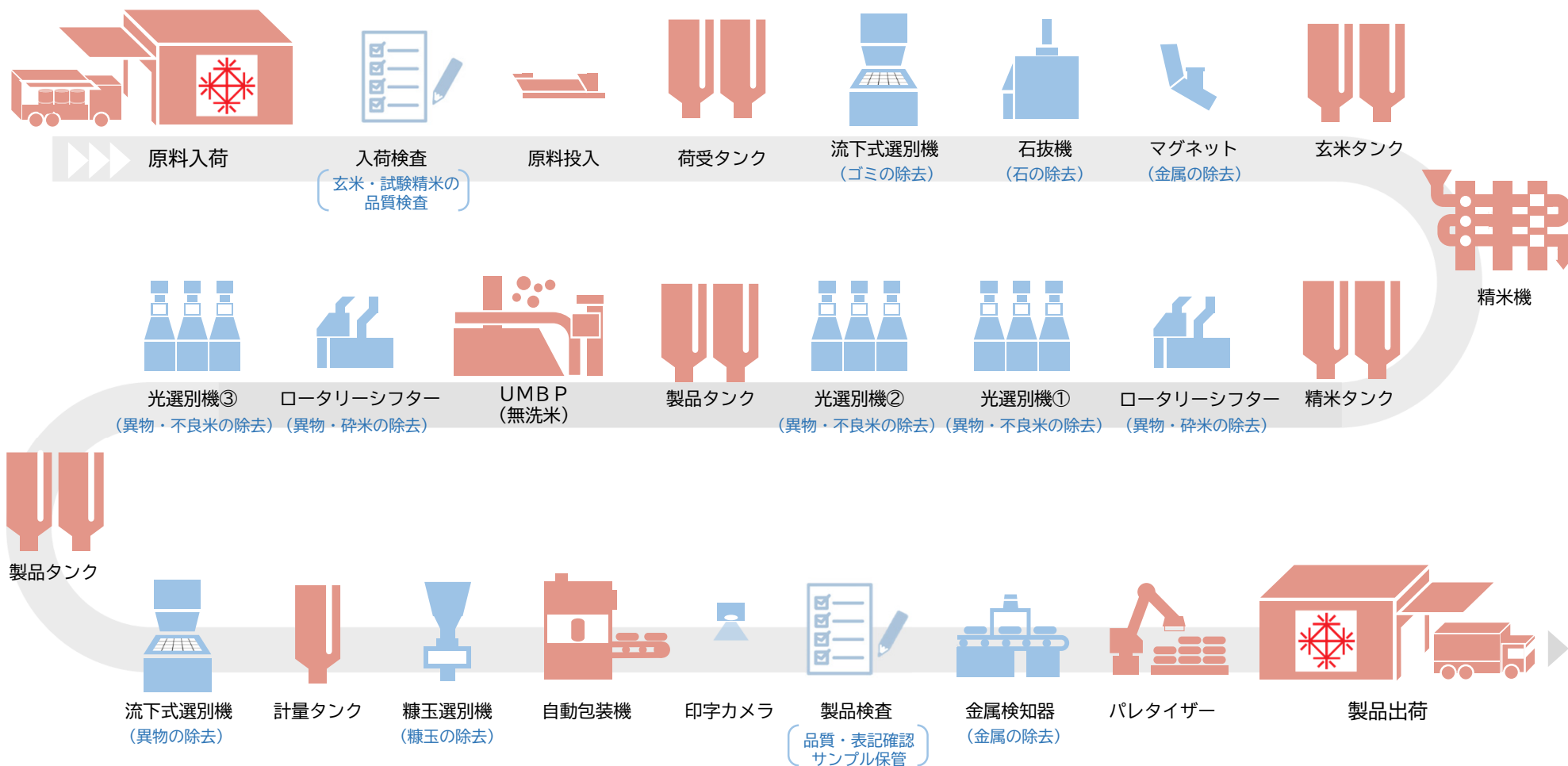
- 一年一作のお米を安定的に供給するため、取引先の実際の需要に基づいた計画的な調達と販売

仕入先(生産者)から販売先(実需者)&消費者までの継続的なかけ橋となる役割

精米工場の機能

原料入荷から製品出荷までの工程
(UMB P無洗米ライン・簡略イメージ)

水色部分…検査・異物除去などの品質管理に係る工程



精米工場における工程の多くは検査と異物除去

当社におけるイメージ

安定供給



桶川工場（埼玉県）。最大8,000トンの能力で首都圏エリアの供給を担う。

精米・選別



画像は選別機による異物除去。精米工場の工程の大半は異物を除去する作業。

包装



桶川工場の包装ライン。大手スーパー・コンビニ・生協のPBも多い。

品質管理

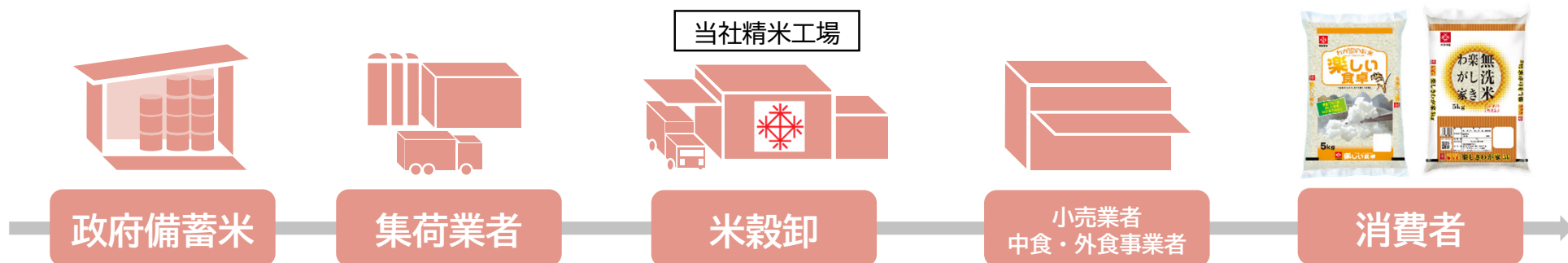


原料入荷時と製品出荷時の検査。基準に満たないものは入れない/出さないを徹底。

政府備蓄米の流通における当社の役割

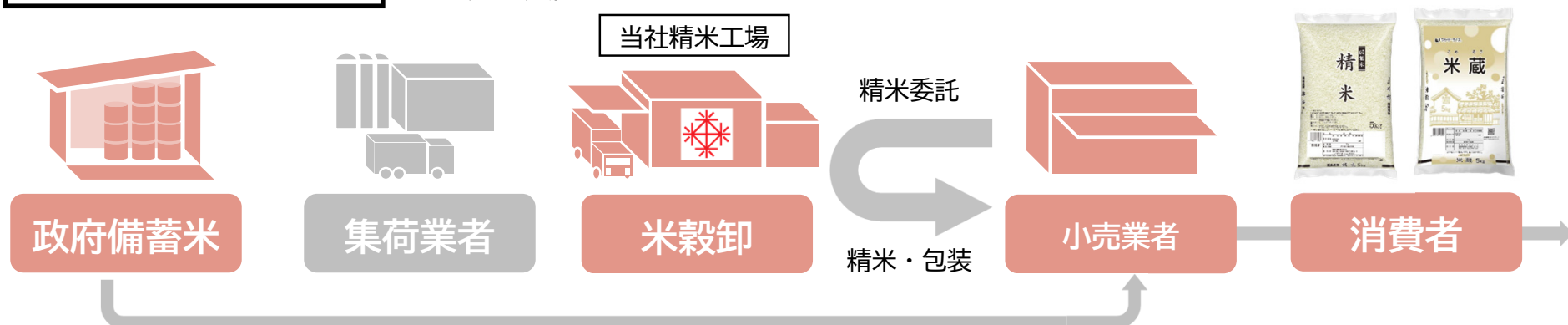
一般競争入札方式 (2025年3月～)

一般競争入札方式での備蓄米の放出は、全農を中心とした集荷業者が落札し、当社を含む米穀卸へ販売された。当社にとっては年間必要量に対して不足していた数量を補填する効果。迅速な精米と全国への流通をいち早く行った。



随意契約方式 (2025年5月～)

随意契約方式での備蓄米の放出は、政府から小売業者へ直接販売となった。玄米での販売となるため、当社は小売業者からの要請に応じて、精米加工および包装を受託した。



入札/随意契約それぞれ異なる方式の政府備蓄米放出に対応
安全性とスピードを重視し、迅速な精米と全国への流通に尽力した

コメ関連ビジネスの成長

飼料事業

人口減少、高齢化に伴い
国内の食品関連市場規模は縮小予測



2025年 日本人の人口

▲90万人
(2024年比)

【総務省：住民基本台帳に基づく人口、人口動態および世帯数】参照

従来の畜産業界・水産業界向け飼料原料に加えて、
成長分野のペット業界向けのフード原料拡販を推進

米穀事業への依存度低減と飼料事業の収益基盤拡大

木徳神糧グループ



糟糠類・飼料用米・
精米副産物等

国内食品業界



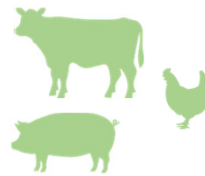
副産物・食品残さ等

海外サプライヤー

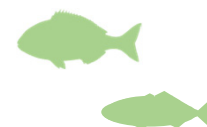


乾牧草

木徳神糧 飼料事業



畜産業界



水産業界



ペット業界

鶏卵事業

成鶏の特徴のある肉質を活かした加工食品開発

弾力・歯応え



強いコク・風味

産卵を終えた鶏を食肉加工品として商品化
肉質の特性を活かした惣菜用商品として提案

鶏肉加工品を収益の柱に成長させていく



播州の名物料理“ひねぼん”や肉団子など、
成鶏独特の強い旨味を活かした加工食品

資本コストや株価を意識した経営の実現へ

株式分割

株主・投資家の皆さまにとってより投資しやすい環境を整え、投資家層を幅広い世代において拡大することを目的に株式分割を実施。

分割比率

1 対 5

分割基準日: 2025年6月30日

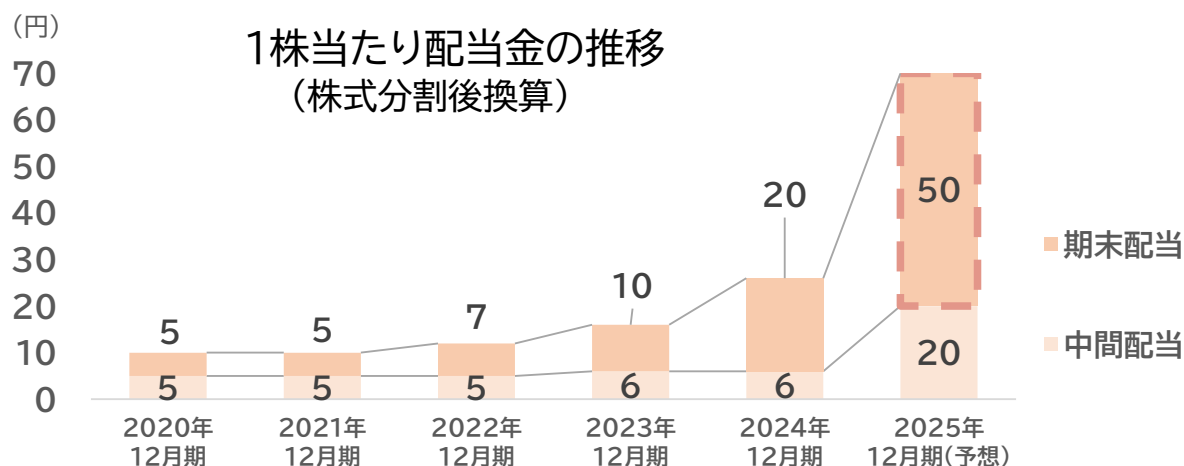
効力発生日: 2025年7月 1日

※株主優待については実質的な変更なし。

株主還元

株主への利益還元を最重要課題の一つと認識。安定配当の継続を基本方針とし、内部留保の充実を踏まえたうえで業績に応じて配当金額を決定。株主優待は株式購入・保有継続の理由※となっており、期待に応える優待を継続。

※株主アンケートより



株主優待

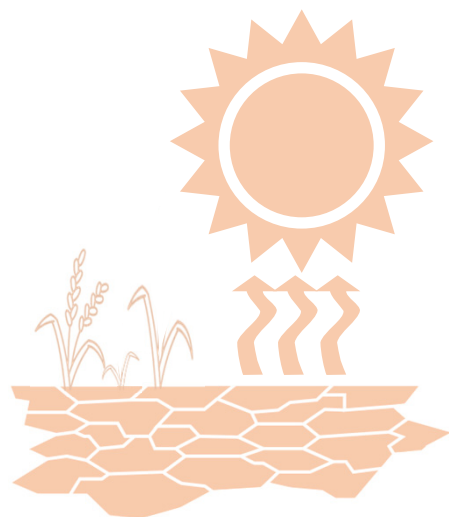
米穀商品を
年2回贈呈



優待品イメージ

2025年12月期の米穀事業の見通し

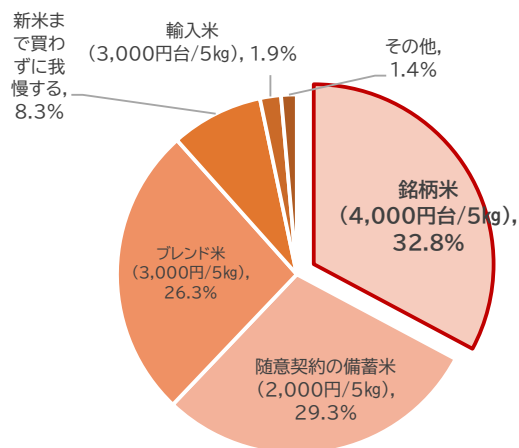
天候不順の生産量への影響



- ・ 猛暑と渇水による収量低下と精米歩留まりの悪化により、実際の流通量が不足する恐れ。

消費者の購買動向

今後新米出回りまでに最も購入したい米の種類



【(公財)流通経済研究所、備蓄米の消費者評価に関する調査を実施】より抜粋

- ・ 政府備蓄米の流通で価格帯の選択肢は広がったが、銘柄米に対する消費者のニーズは堅調。

米穀取引価格の動向

主要産地の概算金(例)

産地	銘柄	金額 (円/60kg)
北海道	ななつぼし	29,000
秋田県	あきたこまち	28,300
新潟県	一般コシヒカリ	30,000
宮城県	ひとめぼれ	28,000

- ・ 「令和の米騒動」からの回復にはまだ時間がかかる。令和7年産米の概算金は高値でスタート。

令和7年産米の生産量は増産見込みである一方、
天候リスクで実際の流通量不足が懸念される不透明な市場環境が予想される
消費・販売については堅調な推移を見込む

2025年12期連結業績予想

連結業績の見通し

単位：百万円

	2024年12月期 通期実績	2025年12月期通期 見通し(修正前)	2025年12月期通期 見通し(修正後)	前期実績との差	前期実績 増減率
売上高	118,998	165,000	177,000	+58,002	48.7%
営業利益	2,377	4,000	7,700	+5,323	223.9%
経常利益	2,485	4,100	7,800	+5,315	213.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,723	2,800	5,400	+3,677	213.4%



注意事項

本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。

本資料は、2025年8月7日現在のデータに基づき作成しております。

【お問い合わせ先】

木徳神糧株式会社 社長室

TEL:03-3233-5125 Email:ir@kitoku-shinryo.co.jp

URL <https://www.kitoku-shinryo.co.jp/>